

学舎長日記

小諸消防署の係官を招き、浅間山噴火を想定しての避難訓練が無事終了。部屋で書類に目を通していると、舎生のMさん（女性）が職員に付き添われてやってきた。見るとしっかり手紙が握られている。そこには、「はじめて おおぜい 人がひなんくんれん さんかして すこしないたけど すぐなきやんで たいくかんに ひなんできました」と書かれていた。「よくできたね」と言葉を交わし、握手をして別れた。その笑顔から、よほどうれしかった様子が伺えた。

前回9月の防災訓練時には、大泣きをして参加できなかった記憶が甦る。今回も最初は泣いていたようであったが、途中から気持ちを切り替え、どうにか訓練に参加することが出来た。後から聞いたところによると、担当職員は今回の訓練参加を支援するに当たり、事前に訓練の内容を本人が分かり易いように絵カードにして、本人に噛み砕いて幾度も説明していたとのことであった。

成功体験を積み重ね、自信をつけて意欲的で前向きな生活を過ごして欲しい、という職員の願いが伝わってくる。学舎で生活を始めて間もないMさんは、集団行動・生活への第一歩を踏み出した。これからも、職員の一人ひとりを大切にしたいという願いに基づく実践は続く。（小松）＜一羔ニュース第531号より＞